

Thème 2

教員の専門性とは何か？

Quelles sont les professionnalités pour les enseignants?

伊 川 徹

IKAWA Toru

Université d'Ashiya

ikawa@ashiya-u.ac.jp

「あの先生嫌いや。自分の自慢しかせえへんし、自分の作った高い教科書を買わんと、単位やらへんって言うし…」学生諸君に嫌われる大学教員の典型がこれだ。教員の性格を変えることはできないので、不運と諦めるしかないが、大学のテキスト、それもフランス語のそれはCD/DVD付きながら、確かに高価だ。教養課程に在籍する学生は、つい1～2年前まで高校生であり、教科書は無償貸与されたり、購入するにしても文科省や地方自治体の補助があつて、同等のものが信じられないほど安価に入手できたりしたのだ。ともあれ、語学担当教員が自著を用いるのは、教室での指導上、最大効果を生むであろうと期待するからであり、出版業績や印税収入を期待するからではない。弘法筆を選ばずと言うが、教員や剣客はそれほど偉くないので、使い易いテキストや刀を用いて相手に対処するのである。

小・中・高等学校のテキストは文科省検定済の精々数種類の中から選ばねばならず、しかもそれらが地方自治体の教育委員会の意向によって1～2冊に限定され、更に学校長・教頭の意見を採り入れて選択するとなると、結局お仕着せの1冊を採択せざるを得ないのが実情だ。教員も、自己選択が許されるなら、絶対に使いたくないテキストを用いて、文科省指導要領に従って（なくても良いのだが、近隣のクラス担当者や保護者から勝手なことをしている教員がいると告げ口されるので）教えざるを得ないのだ。学生・生徒諸君はこうした事実を知る由もなく、教員が自作のテキストを用いて、独自開発した教授法で教えることができるという大学の自治や学問の自由に気づかない。

大学教員の専門性とは、研究対象を如何に科学的に分析し、如何に説得力ある論旨を展開できるかであるから、並行研究している筈の教授法に如何にしてそれを応用できるかが問われよう。単なる語学教育に留まらず、言語学教育、更には言語文化教育へと教授内容を高めるために、平素研鑽すべきは何であろうか？

*

教授法の研究は図上演習に過ぎないので、それを実戦（実践）的に応用できるように、学生諸君を被験者として毎年臨床試験（試行錯誤）を繰り返すことになる。医学部では被験者の生命に関わるので、本人に了承を得て、それが実施されるが、外国語の授業ではそれが学生諸君に告げられることなく実施されるので、彼らにとっては迷惑な話だ。内視鏡やMRIなどの最新技術を駆使して治療が行われる医療現場を知れば、外国語教育の現場でもInternetにアクセスするなど最新のdocuments authentiquesを駆使或いは併用した授業が展開されて然るべきだ。事実、多くの教育現場に無線LANが装備され、その環境が整いつつある。

しかし、最新の医療機器を医療現場に導入すれば、患者の治癒率もそれに比例して向上するであろうか？今（2015）年も東北の医学部附属病院、関東や関西の医療センターでは、手術担当医師の技量不足が原因で死者が続出しているし、最新の教育機器が導入された教育現場でも、担当教員の技量不足の所為で外国語嫌いが続出している。それでは、患者を何人か殺せば、外国語嫌いを何人か輩出すれば、やがて技量は向上するであろうか？当然ながら、答えは **Non** である。医療や教育を経験的法則に従って推進しようとするところに原因がある。つまり、因果の必然的関係を解明する姿勢（理論化）が欠けていることに気づいていないのだ。

理論化の一方、実践面では、教員は技術者になろうとするのではなく、俳優、音楽家、舞踊家など身体を駆使する芸術家と同じように、表現者としての自己を磨くことから始めねばならない。そのためには、まず、教壇の立ち姿が（猫背だと卑屈な人間だと誤解され、教卓に寄りかかり過ぎると自信がなさそうに見えるので）美しくなくてはならないし、全身を使って（しかも無駄な動きがなく）、滑舌正しく、腹式呼吸で美しい日本語やフランス語が話せないといけない。それより何より、学ぶ気もない或いは学ぶ力もない学生を排除せず、侮辱せず、彼らにこちらを振り向かせるほどの魅力的語り口に長けていなければならない。どうすれば、そのようなことができるのであろうか？

*

そのために必要と思われる資質をいくつか挙げてみよう。

- 1) あなたはギリシア語やラテン語を学びましたか？
- 2) あなたには留学経験がありますか？
- 3) あなたは劇場や映画館や演奏会場に出かけることが好きですか？
- 4) あなたは芝居をしたり、楽器を演奏したり、ダンスを踊れたりしますか？
- 5) あなたは武術に長けていますか？
- 6) あなたには画才があり、おまけに習字の達人ですか？
- 7) あなたは衣服のカラー・コーディネートに気を配っていますか？
- 8) あなたは美食家で、当然ながらワインに目がありますか？
- 9) あなたは言葉遊びや洒落を言うのが好きですか？

これらに以下の如く模範解答を試みよう。

1) 半世紀前の文学部仏文科や独文科、外国語大学の仏語科や独語科ではラテン語が必修になっていたので、古い教員にはその素養がある筈だ。例えば、*Salve ! Ut vales ? – Valeo bene, gratias.* という会話を知っていれば、*Salut ! Comment vas-tu ? – Je vais bien, merci.* の語源が解った上で、学生諸君を相手にできるので、授業に余裕が生まれるし、ギリシア語も学んでいれば、その範囲は更に広がる。

2) SJLLF, SJDF, Ambassade de France au Japon 共催の Stage に参加するなど身近な方法で、例え短期間でも現地入りし、最新の教授法を学んだり、フランスの日常の習慣を体験したり、現地の人びととの会話に耳馴れしたりすれば、言語教育のみならず言語文化教育に大いに役立つ。

3) 劇場や映画館通いをすれば、役者や演奏家や俳優のパフォーマンスを見て、観客（学生諸君）に注意を向けさせ、自己を魅力的に見せる技を学べる。

4) 上述のことを実践するには、単なる「真似」以上の素養が必要だからである。

5) この心得があれば、脅迫的態度の学生諸君に怖気づくことなく対処できる。

6) 黒（白）板に書いた字や描いた絵が陳腐であれば、学生諸君に教養を疑われる。

7) 毎週同じ服装で教室に現れると、とりわけ女子学生には不潔感を与えるし、全身のカラー・コーディネートが行き届いて(頭髪と皮膚の色として2色を使用してしまふので、残り3色以内で服装を整えて)いないと、繊細な人物ではないと看破される。だからと言って、大人の男性が紺スーツに黒靴までは良いが、海軍人の如く白靴下はご法度だ! 黒か紺でなければ chic とは言えない。同じように大人の女性が AKB48 紛いの衣装で現れても、似合っていないければ、ドン引きだ!

8) 学生食堂でもコンパ会場でも同席者は食事作法に加え、美食家(美意識がある)か否かを観察している。ワイン選定能力の有無も自己の評価に繋がることを覚えておこう。フランス学の専門家としては、生を謳歌する(ことを神仏は快く思わないが、Carpe diem, quam minimum credula postero. の)姿勢は大事だ。

9) 誰しも文学・語学・哲学・美学などの専門家であり、言語感覚に優れている筈だ。一般的にはオヤジ・ギャグなどと揶揄されるが、学生諸君は心底そう思っている訳ではない。言葉遊びを通して、どこまで視線を降ろしてくれるのかな? と期待しているのだ。

しかし、その前にもっと磨かねばならない、最も大切なことがある。それは、10) 人格だ。教員としてのそれではなく、人間としての品格である。

*

某国立大学法人の教養課程の記述式定期試験にコピー&ペーストの解答が続出し、当局がこれを摘発、今後対象学生の処分も辞さないという。一方、対象学生にも言い分がある。教員の70~80%の講義内容が評価に値せず、もっとレベルの高い引用文をコピーして溜飲を下げたのだそう。好い加減な授業を展開した教員も所謂盗作をした学生も問題だが、こういう馴れ合いを生む環境を看過してきた当該大学の教育方針にこそ問題がある。しかも前(2014)年には、コピーに端を発し、指導的立場にある共同研究者が自殺し、自然科学の世界的成果に関する発表が虚偽であることが発覚したにも関わらず、その研究所長である世界的科学賞受賞者が自分の与り知らぬことであると嘯いたり、現代クラシックの名曲の数々がゴーストライターの手に成るものと発覚したりと世間を騒がせたばかりであった。おまけに、これらの取材に際して、複数の報道機関の検証不足が指摘されることとなったことも記憶に新しい。にも拘わらず、最高学府にそれを反面教師として学ぶ能力さえないのが現状だ。世界的ランク付けで日本の1番が23番で2番が59番なのは研究能力が劣っているからではない。世の為人の為である筈の研究が予の為にしか行われず、我が身の手許から世界や宇宙までを見通す広い見識や視野が当該機関の研究者たちに欠けているからである。

今(2015)年も、自然科学研究者が共同研究に携わる女子院生を殺害するという痛ましい事件が起きた。自然な人間性に目覚めたのかも知れないが、だからこそ、そこには正義感はなく、品性が感じられない。「研究者だって人間だ!」そうだ! 聖職者だって、教員だって、議員だって、裁判官だって、検察官だって、弁護士だって、医師だって人間だ! しかし、そういう専門職に就いている人間は、とりわけ人格高潔にして、品性を保ち、正義感がなくてはならない。これらの事件には、男女関係や名誉欲更には金銭欲に目覚め、善悪の判断能力が鈍り、人間的とも言えるが、衝動的且つ刹那的生き方を選択してしまった人びとの不幸が垣間見える。飲酒や賭け事や閨房の交わりが死ぬほど好きでも、喫煙が止められなくとも、盗癖が修まらなくとも、そういう職業を選んだ以上、最大限に自制心を発揮して、自己改革

に努め、少なくとも他の社会人の模範的存在となるよう努める義務があるのだ。我々の世代は誰しも若い頃に第二次世界大戦後の貧しくて、ひもじい生活を余儀なくされたので、耐えたり、我慢したりすることに、さほど努力を必要としないし、それを美德だとさえ考えている。しかし、生誕以来そのような経験がない世代には、何が哀しくて耐えたり、我慢したり、そんな馬鹿なことを…としか考えられないのであろう。ともあれ、名誉と快樂の両方ねだりなど神仏が許さないのだ。在りの～♪儘に～♪生きたければ、職を辞するしかない。

*

冒頭の「あの先生嫌いや。自分の自慢しかせえへんし…」と言う学生の指摘は多分正しいのであろう。しかし、自己の研究成果の1つや2つ、学会活動や社会奉仕の1つや2つがないようでは、大学教員としては極めてお粗末としか言いようがない。人間としての品格が備わっていれば、そうした成果を語っても、相手には厭味に或いは自慢気に聞こえず、多少際どい政治的発言や皮肉や駄洒落を口にしても、言質を取られ、ハラスメント防止対策委員会に駆け込まれることもない。我々の周辺に失言を繰り返す教員がいるとすれば、恐らく表現者を目指さず、技術者たらんとする人びとであり、予の為の研究に固執する研究者なのであろう。

自己の専門や専攻が文学研究であれ、語学研究であれ、常に学際的に対象を捉え、偏狭な研究態度に陥らぬよう意識することが求められる。教壇に立つときにも、その手法を導入し、最良の教科書や教具を用いて、幅広い知識を活かし、常に公平さと正義感に満ちた倫理観や世界観を持って学生諸君に接することが肝要である。教育理念・教育理論・教授法のいずれも欠くことはできないが、まずは人格高潔でなければならない。

また、どんなに劣悪な環境の教育機関でも、そこの専任教員になれたことを自負すべきであり、幸運且つ幸福だと悟らねばならない。長く非常勤の教員生活を送っている者は、それを嘆く専任教員に「一度で良いから代わってよ！」と言いたくもなるのだ。経済的には勿論、精神的にも、生涯を通して比較すれば、生活の質に天国と地獄ほどの差があるからだ。さりながら、そこでの理不尽なことに目を瞑り続けていると、やがて真実を見失う。国公立大学法人のピラミッド型講座制ほどでもないが、右へ倣えの半世紀前の私立大学仏文学科で、恩師の多読主義の研究手法に従ったが、教育手法に真っ向から異議を唱えた結果、16年間の浪々の末、自力で他大学に職を得た身には、それが痛切に解るのである。

研究機関に身を置き、そこから給料を得ている人びとを除けば、我々の仲間は大抵高等教育機関に所属して生計を立てている筈であり、当該機関は我々を研究者であると認定して採用するが、我々の想像以上に教育能力にも大いに期待している。何故ならば、若者の大学全入時代を目前にして、日本の代表的教育機関からそれらの受け皿となる教育機関に至るまで、les intellectuels が入学して来るなどと期待したり、妄想したりする関係者は最早皆無だからである。されば、我々には教員としての専門性を常に意識し、人格の向上に努め、技量を高め続けるしか対処法はないのだ。